不登校児童・生徒支援事例報告書

リソースルームについて

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、同級生とのコミュニケーションが減少し、心理的不安や、孤立感、寂しさを感じることがある。授業内容を理解することが難しくなるなど、学業への影響が出てしまうことに対しての不安ももっている生徒である。

具体的な取組

リソースルームの運営

校内別室である「リソースルーム」は、継続して教室に入れない生徒のための居場所であり、全く登校できない生徒が登校の機会を増やす場であるとともに、不登校生徒が教室復帰をめざす場でもある。また、不登校生徒一人一人の様々な背景や要因をもった、個別の対応や配慮を必要とする子どもたちのためのスペースである。

目的の明確化

「リソースルーム」の目的を以下のように明確にする。

（１）生徒が学校に登校しやすくなるための場とする。
（２）登校後の安心・安全で居心地のよい場とする。
（３）①学習する場　②ソーシャルスキルを高める場　③自分のことを相談する場　④自分の好きなことを学ぶ場　を兼ね備えている場とする。
（４）自分の将来を考える場とする。
（５）生徒が本来の学校生活に戻れる場とする。
（６）生徒の気持ちを落ち着かせる場とする。

リソースルーム１

学習の場として位置付けている。学習したい生徒が自分のペースで学習している。

リソースルーム２

リラックスの場として位置付けている。ソーシャルスキルトレーニング等も実施している。

成果

当該生徒について継続的に校内別室を利用する様子が見られた。学習意欲に改善が見られるなど、「リソースルーム」利用の効果が確認されている。

課題

不登校生徒一人一人の状況に応じて、個別の支援を充実させる必要がある。そのための十分な人的配置及び教材確保が不足することがあり、個別の支援を十分実施できないことがある点が課題となっている。

不登校児童・生徒支援事例報告書

校内別室指導での取組「オアシスルーム」について

不登校児童・生徒の状況

本校には、本人の特性や精神的要因、家庭環境など様々な背景により不登校傾向のある生徒が多く在籍しており、半数以上が小学校から継続した長期の不登校生徒である。不登校対策の一環として、令和５年度から校内に「オアシスルーム」を新設し、別室登校生徒や精神的に不安定な生徒が「安心できる居場所」として利用している。

具体的な取組

安心できる居場所づくり

「オアシスルーム」を利用する生徒は、学校や集団への恐怖心や不安感を抱えているケースも多い。

安心してリラックスした気持ちで過ごせるように、ぬいぐるみや折り紙を活用して温かみのある空間になるよう工夫している。

学習支援

不登校による学習の遅れを気にしている生徒が多い。また、授業についていけないことが教室復帰の妨げとなっているケースもある。そのような生徒への対応として、「オアシスルーム」では支援員による学習支援も行っている。

生徒同士の交流

生徒同士で会話をしたり、一緒に工作をしたりと交流する場面が多くみられる。コミュニケーションが苦手な生徒でも、支援員を介して他生徒と交流できるようになるケースもあり、小集団での関わり方を練習する機会になっている。

個々のニーズに合わせた対応

一人で静かに自習や読書をしたい生徒、他生徒や支援員と交流したい生徒など、「オアシスルーム」での過ごし方は生徒によって異なる。パーテーションを活用し、個々の特性やニーズに合わせて空間を仕切って対応している。

成果

現在、約１０名の生徒が校内別室を利用し、不登校から一歩踏み出すきっかけとなっている。また、他生徒や支援員との交流、学習への意欲、情緒の安定、進路への意識など様々な面で前向きな変化が見られ、大きな成果を得られている。

課題

教室復帰をめざす生徒に対し、次のステップとして、計画的かつ組織的な支援を検討・実践していくことが今後の課題である。

不登校児童・生徒支援事例報告書

【ほっとるーむ】の運営について

不登校児童・生徒の状況

対象生徒は、小学校時代から不登校傾向にあり、学級に入りづらい状況が続いている。特に、同年齢の友人と話すことに困難さを感じており、それを理由に不登校傾向になっている。一方、教員やその他の大人とは円滑にコミュニケーションを図ることができている。

具体的な取組

週１回の校内委員会の実施

別室指導を担当する NPO 法人と学校の教員で週１回の校内で委員会を開催し、個に応じた指導や支援の在り方について情報の共有を図ることで、対象生徒に応じた指導を展開することができており、指導の充実につながっている。

意図的な活動

意図的にコミュニケーションを図ることができるようなボードゲーム等に取り組むことができるようにしている。

個々の不登校生徒への支援

NPO 法人の職員及びインターンの大学生を中心に、学習のサポートをしている。また、いろいろな手段を用いたソーシャルスキルトレーニングを実施することで、学習以外の困り感を解消することができているなど、個に応じた指導を展開できている。

学習以外のサポート

当該生徒だけではなく、本校に在籍する登校しづらい他の生徒に対し、コミュニケーションの場として、校内別室【ほっとるーむ】を活用している。NPO 法人の職員や大学生とコミュニケーションを図りながら安心して過ごすなど、【教室以外の居場所】として、活用が広がりつつある。

成果

NPO 法人と学校が週１回の校内委員会を開催し、個に応じた指導について連携を図り、ソーシャルスキルトレーニング等の指導を実施することで、当該生徒は、毎週学校に登校できるようになった。

課題

別室指導の開設日が週２回である。開設していない日の生徒への対応が課題である。